

地域のボランティアグループと連携した地域清掃活動

- 日曜日の早朝、地域の大人たちと雀宮中学校の有志ボランティアが集まり、地域のゴミ拾い活動が始まりました。
- 今年でおよそ15回目となる活動のきっかけとなったのは、少人数の生徒会と多くの地域の大人たちがはじめた「あいさつ運動」でした。生徒の持つエネルギーを地域貢献の力としようと考え、ゴミ拾いの活動が発起されました。始めたころはわずか10人ほどだった活動は、今では生徒の9割ほどが自主的に参加する大規模なゴミ拾い活動となっています。
- 毎年、全学年がクラスごとに、雀宮地区市民センターや雀宮南図書館など、複数のルートに分かれ周辺地域を歩いてゴミを拾います。道端や草むらの陰に隠れた小さなゴミも丁寧に拾っている姿が印象的でした。
- 1学年が担当した南図書館は、周辺の小学校の児童と保護者も大勢参加しており、清掃活動を通して地域の大人との交流ができる充実した活動となっていました。また、分担も出身小学校で別れ、同じ小学校出身者の異学年交流が生まれることで小学校と中学校との連携を深めることを大切にしているそうです。
- 地域のゴミを拾いながら歩くと、地域の大人たちから「ご苦労様」「ありがとう」といった言葉が聞かれました。生徒たちも積極的に「おはようございます」と挨拶をしていました。



はじまりの挨拶
(雀宮地区市民センター)



熱心にゴミを拾う生徒たち



地域の大人たちも大勢参加！
(南図書館)

【学校の声】

本校では、生徒のボランティア活動がたいへん盛んで、清掃活動以外にも地域行事の運営スタッフとして活躍しています。

年々、参加者が増えており、平成29年度は年間10回の活動に、延べ800名以上の生徒が参加しました。

地域の方々からも暖かい声をかけていただき、生徒の自己肯定感も高まっています。

【地域協議会の声】

年齢の異なる子どもたちが、普段使っている道や施設を清掃するという家庭だけでは取り組めない活動となっています。

活動を続けていく中で、地域全体が雀宮中学校の生徒を誇らしく思うようになりました。

実際に自分の目でゴミを見て、自分の暮らすまちをきれいにしたという自信と地域への愛着を持ってほしいと考えており、今後も続けていきます。

【いいね！】

各クラスに複数の地域のボランティアが加わり、それぞれが声を掛け合って活動しており、地域の大人との交流の中でナナメの関係作りが実践されている。

様々な活動を通して、地元の生徒を誇らしいと思える雰囲気地域全体に浸透してきている。

